

# あきたの 地域医療通信

2014年1月 第17号

発行 / 秋田県健康福祉部医務薬事課  
医師確保対策室



今年度、秋田大学医学部附属病院の臨床研修プログラムにより、地域医療研修として研修医の受入れを行っている、『にかほ市国民健康保険小出診療所・院内診療所』の和田智子<sup>わだともこ</sup>所長から地域医療と地域医療研修についてお話を伺いました。

## Q 地域の診療所勤務を通じてどのような事を感じますか。

A 大きな病院と比べて日頃から患者さんと接する機会が多く、患者さんの生活習慣等が分かりやすい反面、指導が難しいと感じています。病院では少しドライな感じで接することができます（高度先進医療を実施している）が、診療所では患者に近い分、個々にあったより詳細な指導を意識しなければいけません。例えば、「塩分を制限しましょう」という場合には、どんな食事をしているか、また、その悪い点・良い点など親身になって個別に対応していかないと伝わりません。

## Q 地域医療に対する思いを教えてください。

A 地域医療では、患者さん自身が自分の生活と健康を考えセルフケアができるようになることが大事だと考え、『健康教室』を始めとする啓発活動を行っています。患者さん自身がレベルアップすることで医療者もレベルアップすると考えています。医師は当然知識などで優位に立っていますが、先走らずに、患者さんと2人3脚で取り組んでいくことで、少しずつでもお互いのレベルは上がっていく気がします。生活に密着した所で、何ができるか考えていくことがとても大切だと思います。

## Q 地域医療研修の内容について教えてください。

A 今年9月より、1ヶ月単位で秋田大学医学部附属病院の研修医(合計5名)の地域医療研修を受け入れています。時期により少し変わりますが、基本的な1日のスケジュールは、朝(7時-9時)に予防接種、エコー・内視鏡などの検査、午前は外来診療(小出診療所)、昼は往診、午後は外来診療(院内診療所)となっています。1ヶ月の患者数は、600人程(小出診療所320人程、院内診療所260人程)。往診が22人で、ほぼ毎日1人のお宅に訪問している状況と、かなりハードな研修を実施しています。

往診は、都市部の病院にいるとなかなか経験することがなく、患者の背景・家族の対応などが分かるので、面白く勉強になると思います。

また、研修医の皆さんには『自分で考えて診療してもらえるよう』に心がけています。

※ 小出診療所・院内診療所は、曜日によって午前・午後が逆になります。



和田 智子 診療所長

## プロフィール

1987年秋田大学医学部卒業。埼玉県出身。国立立川病院(現 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター：フルローテート研修)、東京医科歯科大学医学部附属病院などを経て平成12年8月小出・院内診療所勤務。平成16年6月より同診療所所長に就任、現在に至る。

## Q 若手医師にメッセージをお願いします。

A 地域医療は、面白くやりがいもあります。また、患者さんからも様々なことを学ぶことができますので、地域医療にも目を向けて、将来はぜひ地域医療に携わっていただきたいと思います。

地域医療研修中の坂本祥先生(秋田大学医学部附属病院 東京都出身)から感想をいただきました。

## Q 地域医療研修をしての感想を教えてください。

A 実際に研修して、とても良かったと思います。

### ①患者さんの背景を知ることができた

大学病院で研修していると、検査データ等が中心となり、中々、患者さんの生活背景(どんな所に住んでいて、何を考えているか)までは目が届きませんが、地域医療研修を通じ、患者さんの背景について学ぶことができたことは、これからの自分の診療の幅が広がると感じます。

### ②普段できないことを経験することができた

レントゲン撮影、薬の調剤など、大学病院では経験できないことをさせていただきました。また、大病院に勤めているとコメディカル(技師や薬剤師など)の方々の仕事を直接見る機会はなかなかありません。今回の体験を通して、普段コメディカルがどんな仕事をしているかが少し想像できた気がします。



診療所スタッフと坂本研修医（前方左）

### ③自分の将来を思い描けた

将来、在宅医療を志しており、往診など地域に密着した医療を行いたいと思っています。和田先生は、まさに地域医療を実践しており、自分の良いロールモデルになりました。スタッフとのコ

ミュニケーション、患者への接し方、仕事に対する考え方など、1つ1つが自分だったらどうするだろうと想像を働かせながら研修させてもらうことができ、自分の将来像をイメージする点でもとても良かったと思います。

### Q 秋田で勤務をしてどう感じますか。

A 現実に秋田は医師が少ないですが、私（初期研修医）にとっては様々な患者さんと接することができるため、メリットだと思います。

また、医師が少ない中で患者さんからとても大事にされていると感じます。都会の病院よりも患者さんとの関係を築き易く、研修医にとってはとても貴重な経験だと思います。なにより、「これからも秋田で頑張る」という一言を聞くとモチベーションが上がり、秋田でこれからも勤務したいと感じます。

## 健康教室の様子

平成25年12月19日(木)14時30分より、小出診療所にて『ある夫婦の日常』と題し健康教室が開催されました。当日は、午前で外来診療が終わっているにもかかわらず、10名を超える地域の方々が集まりました。

いつもは、スタッフ（看護師・検査技師）による寸劇が中心ですが、今回は研修中の坂本先生も混じり、参加した皆さんは、熱心に話に耳を傾け、寸劇に見入り、時には『大笑』しながら、とても楽しい雰囲気で行われていました。

地域住民とのふれあいを通じ、地域に根差した医療を感じられました。

和田先生からは、「1人でも聞きに来てくれれば『健康教室』を開催している。その参加した患者さんが、他所に行った時にまた別のの人に説明しどんどん広がってってくれるととてもうれしい。また、診察に来ていない患者さん、お薬が切れている患者さんには、看護師さんから連絡してもらうなど、『ちょっとおせっかい』と思うくらいで関わられる関係が良い。」などのお話がありました。



## 総合診療・家庭医養成プログラムの研修を見学してみませんか？

秋田県と秋田県厚生連が連携し、平成24年4月から専門研修がスタートし、26年4月にはプログラムがVer.2に更新となります。

2施設（秋田組合総合病院及び湖東総合病院）を研修の場とし、研修修了後（3年）には、日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医、日本在宅医学会認定専門医の受験資格を取得できます。

実際の研修風景や施設の見学は、随時受け付けしておりますので、お気軽にご連絡ください。

動画配信もぜひ、ご覧ください！



お問い合わせ

■秋田県健康福祉部 医師確保対策室 電話 018(860)1410  
e-mail: [ishikakuho@pref.akita.lg.jp](mailto:ishikakuho@pref.akita.lg.jp) <http://common.pref.akita.lg.jp/ishikakuho/>

■秋田県厚生農業協同組合連合会 医療従事者確保対策室 電話 018(864)2625  
e-mail: [kakuho@akitakouseiren.or.jp](mailto:kakuho@akitakouseiren.or.jp) <http://www.akitakouseiren.or.jp/>

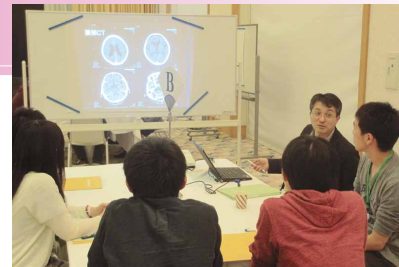
■秋田組合総合病院 電話 018(880)3000  
e-mail: [akikumi@akikumihsp.com](mailto:akikumi@akikumihsp.com) <http://www.akikumihsp.com/>

## レジデントスキルアップキャンプ

初期研修医（主に1年目）を対象にした『レジデントスキルアップキャンプ』が、平成25年10月25日(金)、26日(土)に開催され57名の研修医が参加しました。

毎年恒例の福井大学 寺澤秀一教授の『救急を如何に研修すべきか』の講演では、参加者から「ユーモアあふれるプレゼンで面白く、臨床に即活かせる救急の知識を学べた」等の感想をいただきました。

また、内容・疾患の異なるステーションを25分ずつ4ステーションを巡回して受講する『ファーストタッチ・サーキットトレーニング』では、「他病院の研修医とのディスカッションで、貴重な経験ができた」、「もっと多くのステーションを回りたいかった」などキャンプ一番の好評価でした。



サーキットトレーニング風景



ケースカンファレンス発表

## 医学生スキルアップセミナー

県内外の医学生を対象にした『医学生スキルアップセミナー』が平成25年10月26日(土)に開催されました。

今年度は県外から4名の医学生が参加し、午前中に大潟村会場で『レジデントスキルアップキャンプ』のケースカンファレンス、午後からは会場を秋田市に移し、C B Tと国家試験対策の講義やグローバルキャリア形成についての講演が行われました。

セミナー終了後の交流会では、秋田の美味しいお酒と郷土料理を食べながら、参加した学生と講師の間で活発な意見交換が行われ、「キャリア形成（海外留学等）について話を聞くことができ、刺激的だった」、「勉強へのモチベーションが上がり、将来をしっかりと見据えて学生生活を送っていきたい」などの感想をいただき、充実したセミナーとなりました。来年度も開催予定です。多くの医学生の皆さんの参加をお待ちしています。



ケースカンファレンス聴講(大潟村)



セミナー聴講 (秋田市)

## イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先(団体名/電話/FAX)	
2月	3日(月)	心臓・腹部超音波検査講習会	秋田大学医学部附属病院 シミュレーション教育センター	秋田大学医学部附属病院 医師キャリア形成支援センター TEL:018-884-6266 FAX:018-884-6454	
	10日(月)	秋田県臨床研修病院合同説明会	秋田大学医学部医学系総合研究棟 ホテルメトロポリタン秋田	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883	
	17日(月)	低侵襲治療習得プロジェクト内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)実習セミナー	後期研修医	秋田大学医学部附属病院 シミュレーション教育センター 超音波センター	秋田大学医学部附属病院 医師キャリア形成支援センター TEL:018-884-6266 FAX:018-884-6454
3月	2日(日)	レジナビフェア 2014 in 福岡	医学生	マリンメッセ福岡(福岡市博多区)	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
	8日(土)~9日(日)	シミュレーション基盤教育型セミナー in 秋田 Fun Sim J	県内医療従事者	秋田市民交流プラザ ALVE (秋田市)	あきた医師総合支援センター TEL:018-884-6430 FAX:018-884-6457
	21日(金)	秋田県胸腔鏡セミナー	医師及び研修医	秋田大学医学部附属病院 シミュレーション教育センター	

### ●秋田県職員医師を募集しています。

勤務期間は  
**4年間が1単位**

秋田県内の自治体病院等で勤務していただける医師を県職員として採用します。

- ◆3年間は県内の自治体病院等に勤務
  - ◆残りの1年間は希望する国内外の医療・研修施設において、有給で研修・研究が可能
- ご連絡いただければ、直ちに資料をお送りします。

<http://common.pref.akita.lg.jp/ishikakuho/> (あきたの医療情報 みてたんせ)

検索

# 指導医メッセージ



本荘第一病院  
内科  
谷合 久憲先生



由利本荘市に来て早5年、地域の伝統的行事の裸参りに参加したり、鳥海山の山スキーも体験するなど秋田を満喫しています。米、魚、酒と東京では味わえない食に日々幸せを感じています。糖尿病外来にももの忘れ外来、在宅に老健施設管理、看取りと日々刺激を受けています。最近の取組としては歯科診療所でのHb

A1c測定や中学校でのがん教育授業、重症認知症患者への往診等なかなか味わえないクリエイティブな仕事をさせていただいています。

研修医には自分でカスタマイズしてもらい、救急外来、病棟管理から在宅まで個々に合わせて一緒に勉強しています。町内会の勉強会で講演し、その後の飲み会で一般市民と肌で触れ合い、病院では見せない患者さんの生の姿を体感してもらっています。一度しかない医者人生を後悔しないよう全力投球してもらっています。指導医としても彼らから学ぶことも多く、逆に感謝の毎日です。

吉田寅之助の松下村塾のように皆で学びあえる様な研修も悪くないか感じております。今後包括ケアの時代に入り、ますます市民とのコラボが必要となります。「面白きこともなき世を面白く」の精神で市民と一緒に駆け抜けて行きたいと思えます。百聞は一見に如かず、まずは秋田の医療を自分の目と耳で、そして口と鼻のどで味わってみませんか！

## 研修医メッセージ

大館市立総合病院  
若狭 悠介先生



指導医の室谷先生(左)と  
若狭先生(右)

当院は北秋田の医療の中心を担う中核病院の一つです。特徴としては、日常診療の中で風邪、腹痛、めまいなど一般的な症状を訴える患者さんを始め、脳梗塞、下血、心筋梗塞など重篤な患者さんも次々に訪れます。

日々の業務でも、研修医の自主性を尊重し上級医がしっかりとカバーしてくれる体制が整っているため、より実践的な研修生活が送れると思えます。研修医の大きな課題の一つである救急診療において、当院は全科当直制度をとっており様々な症例を経験できるのみならず、TVドラマ「コードブルー」でモデルとなり、高次医療の最前線で脚光を浴びている千葉北総病院救命救急科で研修できることも大きな魅力の一つだと思えます。

当院ではどの病院にも負けない研修生活が送れると自信を持って言うことができます。私たちと共に充実した研修生活をつくっていきましょう。



## 中通総合病院

〒010-8577 秋田県秋田市南通みその町3番15号  
TEL:018-833-1122(代表)

秋田市中心部に位置する当院は、平成25年12月2日(月)に新病院(28診療科、病床数450床)での診療を開始しました。

新病院は「患者さんにとって分かりやすい施設」「医療の質の向上」「居心地の良い環境」「地域に開かれた医療施設」をコンセプトに設計しました。

救急受診、あるいは救急車による搬送時には迅速な診断および治療ができるように救急外来を中心に検査部門を配置し、蘇生室には手術室と集中治療室への直通エレベーターを設置しました。また、カテーテル検査室と手術室の機能を一つにまとめたハイブリッド手術室を新たに備え、心筋梗塞などの心臓疾患や動脈疾患に迅速に対応できるようにしました。

診察室は患者さんのプライバシーに配慮し個室型に、建物の中心には光庭を設け、外来、病棟とも自然光が入る明るい空間になっています。今後は外構工事や既存棟の改修を行い、本年10月グランドオープンを予定しています。

病院はコンパクトになりますが、開設以来「いつでも どこでも だれでも」、〔患者の立場に立つ親切で信頼される良い医療を行い地域に貢献していく〕という理念を踏襲し、救急医療や脳神経外科、心臓血管外科などの高度専門医療を行う一方、地域に密着したプライマリ・ケアや生活習慣病に対する医療、がん医療、高齢者医療に取り組み、総合的、全人的な医療を行ってまいります。



ハイブリッド手術室

… お問い合わせ先 …

E-mail: [ishikakuho@pref.akita.lg.jp](mailto:ishikakuho@pref.akita.lg.jp) Tel.018-860-1410

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。